

ネクタリン防除体系の策定

福島県果樹試験場 病理昆虫部
平成17年度試験研究成績書
分類コード 04-99-23000000

部門名 果樹－その他－病虫害防除
担当者 尾形 正・菅野英二・相原隆志・荒川昭弘

I 新技術の解説

1 要旨

- (1) 平成15年3月に改正農薬取締法が施行されたことにより、ネクタリンに使用できる農薬(薬剤)が極めて少ない状況となった。登録農薬の少ないマイナー作物に対しては、農薬の登録取得のため暫定的に使用できる経過措置期間が認められた。この間、農薬登録のための残留試験を実施し、登録された農薬(薬剤)および登録申請中の農薬(薬剤)による防除体系を作成し、現地実証を試みた。
- (2) その結果、主要な病虫害に対して有効な防除体系を策定することができた。
- (3) せん孔細菌病に対して開花前と収穫後にはICボルドー412やコサイドDFが有効であり、生育期にはマイコシールドが使用可能となった。マイコシールドの使用基準は収穫28日前まで、5回以内であり、普通モモよりも7日長い。
- (4) 果実腐敗性病害については収穫後の調査で灰星病、ホモプシス腐敗病および炭疽病が収穫後の保存調査により発生が認められたが、灰星病に対して防除効果が高い殺菌剤の選択肢が多いので、適期にこれらを使用することにより防除可能であると考えられた。また、ホモプシス腐敗病に対しては、ベルコートフロアブルによる防除と有袋栽培の組み合わせにより防除可能と判断された。
- (5) 防除体系を編成する上で、モモには適用はあるが、ネクタリンには適用のない農薬(薬剤)があり、混植園や隣接園での同時防除が制限される場合が多い。今後、さらに、ネクタリンの登録農薬を拡充し、モモとの共通防除を可能にする必要がある。

2 期待される効果

ネクタリンは平成15年以降、経過措置による防除対応、そのための生産物の安全性確認および集出荷体制が制限された状況の下で生産されてきたが、既登録の農薬とその使用基準を満たしている本防除体系を採用することにより、本種の生産・出荷が容易となる。

3 適用範囲

県内全域

4 普及上の留意点

- (1) ネクタリンに登録のある農薬は、一般にモモに比べ使用基準が厳しい傾向にあるので、両樹種に登録があっても使用に当たってはこれらに十分注意すること。
- (2) 生育期のせん孔細菌病に対して有効な登録農薬はマイコシールドしかないので、収穫間際の防除が困難である。現地試験においても新梢葉での発生が比較的多く認められ、収穫時に果実発病も観察されており、本病の多発生時には春型枝病斑の除去等、耕種的、物理的な防除を徹底する。
- (3) ホモプシス腐敗病に対しては効果の高い登録農薬が少ないので、修正摘果後の6月下旬以降は、速やかに本病防除に有効な袋かけを実施し、有袋栽培とする。

II 具体的データ等

表1 新梢葉における縮葉病およびせん孔細菌病の発生状況

項目	縮葉病		せん孔細菌病			
	5月19日		5月19日		8月29日	
	調査 葉数	発病 葉率%	調査 葉数	発病 葉率%	調査 葉数	発病 葉率%
反復						
I	122	0	122	0	296	11.1
II	130	0	130	0	321	14.6
III	135	0	135	0	353	1.4
合計・平均	387	0	387	0	970	9.1

表2 収穫果の灰星病、ホモブシス腐敗病および炭疽病に対する防除効果

項目		果 実 発 病 率 (%)								
		灰星病			ホモブシス腐敗病			炭疽病		
反復	調査 果数	+5	+7	+9	+5	+7	+9	+5	+7	+9 _a
I	18	5.6	5.6	5.6	0	0	11.1	0	0	0
II	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0
III	18	11.1	11.1	11.1	0	0	0	0	5.6	5.6
合計・平均	54	5.6	5.6	5.6	0.0	0.0	3.7	0.0	1.9	1.9

注、*aは収穫後の保存日数を示す。

表3 防除実績

回数	実施	対象病害虫	防除薬剤実績	使用濃度	登録の有無
1	発芽前 3月22日	縮葉病	石灰硫黄合剤	100倍	○
2	4月10日	越冬害虫 ハマキムシ類	ハーベオオイル ファイブスターWDG	500倍 2,000倍	○
3	開花直前 4月15日	せん孔細菌病	IOボルドー412	30倍	○
4	落花10日後 5月8日	せん孔細菌病 黒星病 アブラムシ類 モモハモグリガ	デランF アドマイヤーWDG	1,000倍 10,000倍	○
	5月13日	フェロモン対象害虫	コンフューザーP	150本/10a	○
5	5月20日	灰星病 せん孔細菌病	サソルトWP マイコシールド	3,000倍 1,500倍	○
6	5月28日	黒星病 カイガラムシ類	サニバー アブロードF	500倍 1,000倍	○
7	6月8日	黒星病 せん孔細菌病 シンクイムシ類 モモハモグリガ	スロビーDF マイコシールド サイアノックスWP	3,000倍 1,500倍 1,000倍	○
8	6月20日	灰星病 ホモブシス腐敗病	ベルコートF	1,000倍	○
9	6月29日	灰星病	スロビーDF	2,000倍	○
10	7月12日	シンクイムシ類 モモハモグリガ	アーデントWP	1,000倍	○
11	7月18日	灰星病 ホモブシス腐敗病 ハヤシ類	オーシャインWP カネマイエF	3,000倍 1,000倍	○
12	7月28日	灰星病 ホモブシス腐敗病	ロブラーJWP	1,500倍	○
13	8月7日	灰星病 ホモブシス腐敗病	オーシャインWP	3,000倍	○
14	8月17日	灰星病	ロブラーJWP	3,000倍	○
特	8月29日	灰星病 ホモブシス腐敗病 ハマキムシ類	オーシャインWP ファイブスターWDG	3,000倍 2,000倍	○
15	9月16日	せん孔細菌病	IOボルドー412	30倍	○
16	9月28日	せん孔細菌病	IOボルドー412	30倍	○

○は登録剤、登録の有無は2006年2月末現在、既登録薬剤には○印を付した。

略称 WP:水和剤、F:フロアブル、DF:ドライフロアブル、WDG:顆粒水和剤、WDG:顆粒水溶解剤、平成17年度試験実施場所:伊達郡伊達町伊達黒地内、試験規模:1区23a

Ⅲ その他

1 執筆者

尾形 正

2 主な参考文献・資料

平成17年度福島県果樹試験場試験研究成績書

平成18年版福島県農作物病害虫防除指針